

※ ○は全国の動向、●は三重県の動向を示す

1 これから求められる力と国の教育改革の動き

- 多様な人々と協働し主体性を持って人生を切り開く力
- 課題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造していくための資質や能力
- 若者の対話力低下
 - ・話し合いで合意形成する経験が減少
 - ・話し合っただけで摩擦が起こることを回避する傾向
→ 人との関係を作る教育の必要性
- 高大接続改革→高等学校基礎学力テスト（H31～）、大学入学希望者学力評価テスト（H32～）の実施
- アクティブ・ラーニングへの転換
- 「チーム学校」の実現
- 主権者教育の推進
(公職選挙法改正→選挙権年齢18歳以上に)

2 人口減少・少子化の進行

- 187万人(H19(2007)年)をピークに人口減少局面に入っており、H52(2040)年には150万人に。
- 地方創生の動きの高まり
 - ・若者の県内定着
 - ・地域の担い手育成、地域活性化
- 文科省が小中学校統合の手引きを60年ぶりに改定
- 中学校卒業者数の減少
 - ・29,994人(H2年)をピークに減少傾向、H33年には15,680人に減少
- 南部地域の県立高校における小規模化が進行
 - ・適正規模下限の3学級未満の高校が複数存在
 - ・教育機会の保障や、若者定着に向けて学校存続を求める地域の声が拡大

3 地域を担う人材育成のニーズの高まり

- ものづくり県〔強み〕(県民一人あたり製造品出荷額全国1位)
- 求人と求職にはミスマッチが存在

4 グローバル化の進展

- 人口あたりの外国人登録者数は、全国3位(H27)
- 日本語指導が必要な外国人児童生徒の割合は、全国1位(H26)

5 情報化の進展

- 教育現場におけるICT機器の活用が進展
- プログラミング教育導入

6 教育格差と貧困の連鎖

- 子どもの6人に一人が貧困の状態(16.3%：H24全国)
- 教育格差が原因となって、貧困の連鎖が発生

7 学校の安全確保への対応

- 南海トラフを震源域とする大地震発生の懸念